

## 個別注記表

### 1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

#### (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品……先入先出法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)によっております。

#### (2) 固定資産の減価償却の方法

##### 1) 有形固定資産(リース資産除く)

定率法

ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。

なお、耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

##### 2) 無形固定資産(リース資産除く)

自社利用のソフトウェアについては利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

##### 3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産は、リース期間を耐用年数とし残存価額を零とする定額法によっております。

#### (3) 引当金の計上基準

##### 1) 貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により計上しております。

貸倒懸念債権及び破産更正債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

##### 2) 賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、次期以降の支給見込額のうち当期負担額を計上しております。

##### 3) 退職給付引当金

従業員に対する退職金の支給に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

#### (4) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理方法は、税抜方式によっております。

#### (5) 端数処理

計算書類の記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

### 2. 表示方法の変更に関する注記

#### (「税効果会計に係る会計基準」の一部改正)の早期適用に伴う変更)

「税効果会計に係る会計基準」の一部改正(企業会計基準第28号2018年2月16日。以下「税効果会計基準一部改正」という。)が当事業年度末に係る計算書類から適用できるようになったことに伴い、当事業年度から税効果会計基準一部改正を適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示する方法に変更しております。

### 3. 貸借対照表に関する注記

#### (1) 関係法人に対する金銭債権及び金銭債務

短期金銭債権 2,736,024 千円

短期金銭債務 525,875 千円

### 4. 損益計算書に関する注記

#### (1) 関係法人との取引高

営業取引による取引高

営業収益 10,215,534 千円

営業費用 4,747,583 千円

営業取引以外の取引による取引高

営業外収益 1,123 千円

#### (2) 特別損失の主な内訳

固定資産除却損は、自動倉庫の修理に伴う部分除却に該当するもの及び器具備品並びにソフトウェアの廃棄によるものです。

5. 株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 当事業年度の末日における発行済株式の種類及び数      普通株式      1,500株

(2) 配当に関する事項

1) 配当金支払額

2018年5月21日の定時株主総会において、次のとおり決議している。

・普通株式の配当に関する事項

(ア) 配当金の総額	51,000 千円
(イ) 一株当たり配当額	34,000 円
(ウ) 基準日	2018年3月20日
(エ) 効力発生日	2018年5月21日

2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

2019年5月27日開催の定時株主総会の議案として、普通株式の配当に関する事項を次のとおり提案しております。

・普通株式の配当に関する事項

(ア) 配当金の総額	200,010 千円
(イ) 一株当たり配当額	133,340 円
(ウ) 基準日	2019年3月20日
(エ) 効力発生日	2019年5月27日

なお、配当原資については、利益剰余金とすることを予定しております。

6. 退職給付会計に関する注記

(1) 採用している退職給付制度の概要

当社では、従業員の退職給付に充てるため、退職一時金制度及び確定給付企業年金制度を採用しております。退職一時金制度(非積立型)では、退職給付として、勤務期間に基づいた一時金を支給しております。また、確定給付企業年金(積立型制度)では、勤務期間に基づいた一時金または年金を支給しております。役員及び従業員については日生協企業年金基金制度に加入しておりますが、複数の事業主により設立された企業年金である総合設立型基金のため、確定拠出制度と同様の会計処理を行っております。

(2) 退職給付引当金または前払年金費用並びに退職給付費用の処理方法

①退職給付見込額の期間帰属方法

当社では、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当期までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

②数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

当社では、数理計算上の差異は、発生時における社員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌会計年度から費用処理することとしております。

また、過去勤務費用は、発生年度に全額処理しております。

(3) 確定給付企業年金制度(第2制度含む)

1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

退職給付債務の期首残高	1,664,577 千円
勤務費用	141,967 千円
利息費用	2,291 千円
数理計算上の差異の当期発生額	82,210 千円
退職給付の支払額	△ 43,069 千円
期末における退職給付債務	1,847,978 千円

2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

期首における年金資産	935,948 千円
期待運用収益	9,359 千円
数理計算上の差異の当期発生額	△ 6,192 千円
事業主からの拠出額	81,269 千円
退職給付の支払額	△ 18,348 千円
期末における年金資産	1,002,035 千円

3) 退職給付債務及び年金資産と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用

積立型制度の退職給付債務	869,936 千円	
年金資産	△ 1,002,035 千円	
	△ 132,099 千円	
非積立型制度の退職給付債務	978,042 千円	
未認識数理計算上の差異	△ 101,164 千円	
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	744,778 千円	
退職給付引当金	1,031,735 千円	
前払年金費用	△ 286,956 千円	
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	744,778 千円	

4) 退職給付に関連する損益

勤務費用	141,967 千円
利息費用	2,291 千円
期待運用収益	△ 9,359 千円
数理計算上の差異の当期の費用処理額	13,263 千円
小計	148,164 千円
出向者当期引当金出向先負担分	△ 4,652 千円
確定給付制度に係る退職給付費用	143,511 千円

5) 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次の通りです。

一般勘定	83.96 %
国内債券	0.53 %
短期資産	1.70 %
国内株式	1.13 %
外国債券	7.14 %
外国株式	2.16 %
その他	3.38 %
合計	100.00 %

6) 長期期待運用収益率設定方法に関する記載

年金資産の長期期待運用収益率は、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮して決定しております。

7) 数理計算上の計算基礎に関する事項

期末における主要な数理計算上の計算基礎

割引率	0.056 %
長期期待運用収益率	1.00 %

(4) 複数事業主制度(第1制度)

1) 日生協企業年金基金制度について

役員及び従業員については日生協企業年金基金制度に加入しておりますが、複数の事業主により設立された企業年金である総合設立型基金のため、確定拠出制度と同様の会計処理を行っております。

なお、要拠出額78,296千円は当期の法定福利費として処理しており、複数事業主制度に関する事項は次の通りであります。

2) 制度全体の積立状況に関する事項

年金時価資産額	41,500,920 千円	(2019年3月20日現在)
年金財政計算上の数理債務の額	33,948,101 千円	(2018年3月末日現在)
差引額	7,552,819 千円	

3) 制度全体に占める当社の掛金割合(2019年3月20日)

掛金総額	184,408 千円
当社の掛金額(標準掛金)	6,537 千円

4) 補足説明

数理債務の額は2018年3月末日(財政再計算後)時点、年金時価資産額は2019年3月20日時点で表示しているため、1年のずれがあります。この差引額は、7,552,819千円となっておりますが、数理債務の額は1年追加されるため、差引額は減少します。なお、2018年3月末日時点の繰越剰余金は、6,541,336千円で過去勤務債務残高はありません。

7. 税効果会計に関する注記

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生原因の主な内訳

繰延税金資産(固定)	
賞与引当金	76,104 千円
退職給付引当金	353,534
譲渡損益調整勘定	32,491
未払人件費	29,509
未払費用	16,303
未払事業税	12,601
その他	9,007
小計	529,552
評価性引当額	△ 39,220
繰延税金資産(固定)計	490,332
繰延税金負債(固定)	
前払年金費用	98,328 千円
繰延税金負債(固定)計	98,328
繰延税金資産(固定)の純額	392,003

8. リースにより使用する固定資産に関する注記

事務機器、機械及び装置等の一部については、所有権移転外ファイナンス・リース契約により使用しております。

9. 関連当事者との取引に関する注記

(1) 親会社及び法人主要株主等

(単位:千円)

属性	会社等の名称	議決権等の所有 (被所有)の割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
親法人	日本生活協同組合連合会	被所有 直接100%	役員の兼任	荷役・運送・保管料等	10,019,278	売掛金	808,769
			社員の出向	資金の貸付	1,900,000	短期貸付金	1,900,000
			物流業務受託	受取利息	1,093		
				倉庫・施設賃借関連	4,304,240	買掛金	398,630

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1)取引条件の決定については、一般取引条件と同様に決定しております。

(注2)取引金額には消費税等を含めておりません。期末残高には消費税等を含めております。

10. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

資金調達は、必要な資金を銀行借入れによって行う方針です。

営業債権である売掛金に係る顧客の信用リスクは、契約書等管理共通手順に沿ってリスク低減を図っております。

グループ間金融を行っており、グループ間での資金有効利用とグループ全体の資金コストの低減に努めています。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

2019年3月20日(当期の決算日)における貸借対照表計上額、時価、及びこれらの差額については次のとおりであります。

(単位:千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金預金	196,782	196,782	—
(2) 売掛金	3,509,639		
貸倒引当金	△ 540		
	3,509,098	3,509,098	—
(3) 短期貸付金	1,900,415		
貸倒引当金	0		
	1,900,415	1,900,415	—

(単位:千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 買掛金	3,106,800	3,106,800	—
(2) 未払金	474,457	474,457	—
(3) 未払人件費	1,223,019	1,223,019	—

(注1)金融商品の時価の算定方法

[資産]

(1)現金預金、(2)売掛金、(3)短期貸付金は、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

[負債]

(1)買掛金、(2)未払金、(3)未払人件費は、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

11. 一株当たり情報に関する注記

- |                |             |
|----------------|-------------|
| (1) 一株当たり純資産額  | 1,977,806 円 |
| (2) 一株当たり当期純利益 | 170,691 円   |